

平成 27 年度 卒業生・修了生代表 答辞

厳しかった冬の寒さも和らぎ、柔らかな春の兆しを感じられる頃となりました。本日は、私たち卒業生・修了生のためにこのようなすばらしい式を挙げていただき、誠にありがとうございます。ご多忙にもかかわらずご臨席くださった長谷部学長をはじめ、皆様に、卒業生・修了生一同、心より御礼申し上げます。

思い起こせば4年前、胸に大きな期待とそれと同じくらいの大きな不安を抱き、私たちは横浜国立大学に入学いたしました。学業はもちろんのこと、サークル活動やアルバイト、ボランティアや留学など、一人一人が様々なことに精を出したこの4年間は瞬く間に過ぎていきました。それぞれが学生として過ごしたこの時間は、かけがえのない財産であり、これからの私たちの人生にとって大きな糧になると思います。

私は大学に入学する以前から自動車や航空機などといった機械系に興味があったため、横浜国立大学の機械工学・材料系学科に入学しました。入学当初は、講義の課題や実験をこなすことに必死で、あまり何も考えずに日々を過ごしていました。しかし、3年生の夏にインターンシップに行った際、今までに得た知識がどのように社会で役立つのかをわずかながらに知ることができ、大学での勉強の重要性を再認識することができました。また、自分がこの先どのような道に進むかについての指針のようなものを得ることができ、そこで出会った他大学の学生と交流を深めることにより、彼らの意識の高さを知り、刺激を受け、自分が将来のために何をすべきなのかを深く考えるようになりました。そして私は4年生のとき、今の研究室に所属することになり、企業との共同研究を行うことになりました。そこで企業の方々の姿を拝見し、自分も一人の技術者として、社会に貢献したいという思いを強く抱くようになりました。こうした意識の変化を含め、横浜国立大学の学生として過ごしたこの4年間は、自分を形作るうえで必要不可欠な経験を得られたすばらしい時間でした。これらの経験を今後の人生に活かしていかなければならないと思っています。

4月から私たちはそれぞれの理想を胸に新しい道のを歩み始めます。その道は想像より遥かに険しいこともあれば、道そのものを見失ってしまうこともあるでしょう。しかし、どのような困難に直面した時でも、横浜国立大学でかけがえのない青春時代を過ごした私たちなら、ここで学んだことや出会えた仲間が支えとなり乗り越えることができます。この横浜国立大学で受けた恵みを、自らの人生だけでなく、より広く社会に役立てるために精進し、日本のために、ひいては世界のために大きく貢献できる人間になることを目指していく所存です。

最後になりますが、今日までご指導下さった諸先生方、また様々な場面で私たちを支えて下さった職員の皆様に、改めて御礼申し上げるとともに、大学卒業を迎えた今日まで私たちの成長を見守り続けてくれた家族に感謝します。そして、横浜国立大学の一層の発展を願い、答辞とさせていただきます。

平成 28 年 3 月 24 日
卒業生・修了生代表(理工学部)